

29年11月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査1

1. 調査実施期間 平成29年 11月1日～ 29年11月10日

2. 調査実施方法

全国の構造用集成材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
11月分の回答企業数は6社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) ラミナ荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/11月	12月	30/1月
入荷動向	国産材	10.0	0.0	△ 10.0
	外材	△ 16.7	△ 33.3	0.0
在庫動向	国産材	12.5	0.0	0.0
	外材	△ 33.3	△ 33.3	16.7

・国産材ラミナの入荷動向は11月の増加から12月は横ばい、1月は減少に。外材は11月、12月の減少から1月は横ばいに。

・国産材ラミナの在庫動向は11月の増加から12月、1月は横ばいに。外材は11月、12月の減少から1月は増加に。

(2) ラミナ購入価格動向 Weight. D. I.

品目	29/11月	12月	30/1月
国産材	0.0	0.0	0.0
欧州材	50.0	16.7	16.7
その他	75.0	50.0	50.0

・国産材ラミナの入荷価格は3カ月連続横ばい推移。

・欧州材、その他(米ヒバ)とも強含み。

モニターからのコメント

(ラミナ荷動き)

・入荷はスギ、カラマツとも横ばいである。ラミナ入荷は順調であるが、製品販売に若干苦戦しており、ラミナ在庫はやや増加。
・国産材の入荷動向は、当社においてはヒノキ。引き続き全力で集荷を掛けているが、数量は増えず横ばい状況。10月の長雨、相次いだ大型台風の来襲により、ヒノキ原木の出材が減少し値段が上がった。国産材工場の中には原木が手当て出来ず、計画したヒノキ製材が出来ない製材工場も出て来ている。外材は当社においては米ヒバ材。値上がり著しく未だに現地での集材に苦慮している。年内の入荷は非常に少ないが、一方製品の出荷も値上げの影響から少なくなり、当社の生産量も減少。年内入荷が少なくても現在の在庫で生産継続には十分。現地ではこの秋～冬で仕入れの予定あり。来年以降はまた原料の入荷が増える。国産材の在庫動向は、当社においてはヒノキ。当社新製材工場が順調に立ち上がって来ており、自社製材量が大幅アップ。しかし、原木の集荷が限界を迎えており、これ以上製材量を増やすのも直近では難しく、在庫増加は踊り場を迎えた。外材は、当社の場合は米ヒバ。入荷動向でも記した通り、未だ現地では集材に苦慮する状況が続く。年内の入荷は少なく、当社在庫は減少する見込み。しかし、年内生産分の在庫は確保されており、来年から再度入荷は増える見込み。

(ラミナ価格動向)

・スギ、カラマツとも横ばいである。
・国産材ラミナの入荷価格は、当社の場合ヒノキ。値段が上がったから数量が集まるものでもなく、横ばい推移が続く。集材は引き続き全力で集材中。欧州材は、当社では取扱いがないが、一般的な同業他社の情報によれば、為替円安化と欧州サプライヤーからのユーロ価格も値上がり傾向となっており、確実にラミナ価格は上がる。米ヒバは、米国住宅着工好調により米スギの代替材として米国向けに米ヒバが買われているため。昨秋から今春に掛けて産地バンクーバー周辺の天候が不順で、秋～春の出材が少なかったため。更に夏季の山火事入山規制で米ヒバ丸太が不足、よって、原木不足→ラミナ原料不足→値段大高騰となる。

29年11月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査2

(3) 構造用集成材荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/11月	12月	30/1月
生産動向	国産材	16.7	0.0	△ 8.3
	WW集成管柱	△ 16.7	△ 16.7	△ 33.3
	RW集成平角	33.3	16.7	16.7
	米マツ集成平角	12.5	0.0	△ 12.5
	WW集成平角	—	—	—
出荷動向	国産材	8.3	16.7	△ 8.3
	WW集成管柱	0.0	△ 16.7	△ 16.7
	RW集成平角	16.7	0.0	0.0
	米マツ集成平角	12.5	12.5	0.0
	WW集成平角	—	—	—

・国産材の生産動向は11月の増加から12月は横ばい、1月は減少に。WW集成管柱は3か月連続減少。RW集成平角は3か月連続増加。米マツ集成平角は11月の増加から12月は横ばい、1月は減少に。

・国産材の出荷動向は11月、12月の増加から1月は減少に。WW集成管柱は11月の横ばいから12月、1月は減少に。RW集成平角は11月の増加から12月、1月は横ばいに。米マツ集成平角は11月の増加から12月は横ばい、1月は減少に。

(4) 構造用集成材出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	29/11月	12月	30/1月
スギ集成管柱	8.3	8.3	0.0
ヒノキ集成柱	0.0	0.0	0.0
ヒノキ集成土台	16.7	16.7	0.0
カラマツ集成土台	12.5	12.5	0.0
WW集成管柱	16.7	0.0	0.0
RW集成平角	50.0	16.7	16.7
米マツ集成平角	12.5	37.5	25.0
WW集成平角	—	—	—
米ヒバ土台角	50.0	50.0	50.0
カラマツ集成平角	0.0	0.0	0.0

・構造用集成材の出荷価格動向は、RW集成平角、米ヒバ土台角は強含み。

・米マツ集成平角は原木価格上昇のため強含み。

・その他の品目は保合。

モニターからのコメント

(構造用集成材の荷動き)

・スギは災害公営住宅など現場工程が遅れていることもあり、出荷量が減少傾向。カラマツは採用しているビルダーやハウスメーカーで一部樹種転換があることや、受注棟数の減少など多数要因で、全体的に出荷量が伸びていない。

・国産材構造用集成材の生産動向は、当社においてはヒノキ集成材。引き合い好調で全力生産継続中。当社新工場の一部設備が使用できるようになり、生産は順調に増えている。WW集成材管柱は、当社では生産していないが、一般的な同業他社の情報によれば、スギ集成管柱が国内マーケットでかなり浸透してきたこと、また、スギ集成管柱の国内大手製造メーカーの東北にある新工場での生産が軌道に乗り、出荷量が増えたこと等に起因し、WW集成管柱の荷動きは鈍いらしく、生産も若干ブレーキ気味との話。RW集成平角は、当社では生産していないが、一般的な同業他社の情報によれば、引き続き受注極めて好調で、国内工場各社はフル生産状態の様。米マツ集成平角は、当社では生産していないが、増産、減産の話はあまり聞かれない、そもそも米松集成材はWWやRWと異なり、一部の高強度を求める顧客用や非住宅向けが中心、限られたマーケット故、大勢への影響は微小と考えられる。米ヒバ集成土台は、ラミナコスト上昇による値上げを断行。コストアップということで顧客の米ヒバ離れは少なからずある。マーケットの状況も、ラミナ入荷状況も悲観的であ

(構造用集成材の出荷価格動向)

・スギ集成管柱はコスト面から10月に若干の値上げをしたが、大手メーカーの価格が横ばいであるため、当面相場は変動しないと見込む。カラマツ集成土台は一部樹種変更の動きが出ているため、値上げできる状況ではない。カラマツ集成平角は基本的に横ばいとなっている。

・スギ集成管柱の出荷価格動向は、当社生産品目ではないが、国内大手生産メーカーの東北の新工場の稼働が軌道に乗り、マーケットへの供給量が増えた結果、需要と供給のバランスが取れて、横ばい推移に落ち着いた。ヒノキ集成柱は、当社では強い引き合いの下、全力生産が続く。値上げしたい所だが、当社新工場での増産及び拡販を見込み、戦略的に価格維持している。ヒノキ集成土台は、当社では強い引き合いの下、全力生産が続く、値上げしたい所だが、当社新工場での増産を及び拡販を見込み、戦略的に価格維持している。カラマツ集成土台は、当社生産品目ではないが、こちらも絶対量不足気味で受注に対して供給が間に合っていないと聞く。WW集成管柱は、当社では取扱いないが、一般的な同業他社の情報によれば、値上がり傾向で来たものの、前述のスギ集成材が国内マーケットである程度のシェアを持つに至り、スギ集成材との価格バランスの兼ね合いから、価格は1,900円/本位での横ばい推移とのこと。RW集成平角は、ラミナコスト上昇、製品の引き合い極めて強いということで値上がり傾向。12月には現在の60,000円/m³から63,000円/m³位までの引き上げを狙っているとのこと。米マツ集成平角は、当社生産品目ではなく、マーケットでも限られた需要しかないと考えられる。全体への影響は微小と考えられる。原料の米マツ原木価格は上昇しているため、今後製品単価は値上がりしていくものと思われる。米ヒバ土台角は、原料価格の上昇も急激で、製品の値上げが迫っている。今後お客様各社には値上げの依頼をしていく予定